

桃山学院大学国際関係研究室発足にあたって

現代における国際的諸現象の影響は、おどろく程迅速かつ重大である。地球の片すみでおこった事件が、たちまちのうちに、あらゆる文明国の政治・経済・文化の上に、甚大な影響を及ぼし、場合によっては、人類全体の生存をさえ脅すにいたる。まことに、われわれの政治・経済・文化生活の外延的拡張、国際的諸影響の比率の増大は、戦前ではとうてい考えられぬほどの規模にたっている。

われわれ桃山学院大学関係者中、国際問題に関心を有する研究者有志は、今回、社会科学の成果にもとづき現代の国際関係の研究・調査・資料蒐集を目的として、国際関係研究室を設置した。本大学はその学則第一条で、「世界の市民として広く国際的に活躍しうる人材を養成し、国際社会、世界文化の発展に寄与することを旨とするものであることを明らかにしているが、当研究室の設置はこの目的にも合致するものであり、今後の研鑽努力によって、複雑きわまらない現代の国際関係の解明に微力をつくしたいと望んでいる。

当面の事業計画として、われわれは、一、資料の蒐集・整理、二、研究会・講演会ならびに講習会の開催、三、研究成果、資料および図書の国際的交換ならびに紹介、四、機関誌「国際関係研究」ならびに図書の発行を企図している。またここしばらくの共同研究としては、「アジア地域におけるアメリカの対外援助の実態とその影響」をテーマとしてとりあげている。

今回、機関誌第一号を、「ケネディ政権の当面する諸問題」特集号として、発行する。研究室発足と同時の発行を企図したため、まことに不十分なものとなったが、今後は翻訳のみならず、各研究者の研究成果を逐次発表してゆきたいと思っている。予定された特集号には、「アフリカ問題の現状」、「中・ソの現下の対日観」、戦後における「米・ソ・中の対日政策の關係重要文献リスト」等がある。今後の当研究室の活動にたいして、きたんない御批判や御支援を頂ければ幸にである。